



## 騒音・振動の低減

### 保線

#### ロングレール化

レールとレールの継ぎ目部を車輪が通過する際に発生する列車騒音特有の音「ゴトンゴトン」や振動を低減するため、レールとレールを溶接し継ぎ目をなくしています。また、乗り心地向上にも効果があります。



ロングレール化

#### レール頭頂面の削正

レール頭頂面の傷などを車輪が通過する際に発生する騒音を低減するため、レールを削正する大型保線機械を平成13年より導入し、レール傷や凹凸等の除去に努めています。



レール削正作業

#### 線路の整備

線路の変状により発生する騒音を低減するため、人力や大型保線機械を使用し、線路状態が良好になるように整備しています。



道床突固め作業

## 廃棄物の適正処理

### PCB廃棄物処理

30年以上の長期にわたり保管を余儀なくされてきたPCB廃棄物について、平成13年に「ポリ塩化ビフェニル廃棄物の適正な処理の推進に関する特別措置法」が制定され、平成27年3月までに処理することが義務づけられました。

JESCO(日本環境安全事業(株))の大阪PCB廃棄物処理施設(大阪市此花区)が、平成18年3月に建設され、平成18年10月より本格稼働、今後2年間は大阪市登録PCB廃棄物が優先処理されることになりました。

大阪市内にコンデンサ6台、京都市に変圧器・コンデンサ74台(早期登録)を適正に保管管理してきましたが、そのうち大阪市登録

### 車両

#### CFRP製パンタグラフの採用

架線とパンタグラフの集電舟との摩擦により発生する騒音を低減するため、CFRP(炭素繊維強化プラスチック)製の集電舟を採用しています。従来のアルミ製集電舟に比べて追従性が高いという特長があり、さらに構造の見直しによる相乗効果で、音圧レベルを低下させています。平成14年度より使用開始し、平成18年度までに京阪線では373台中68台、大津線では800系全車16台に導入しています。



CFRP製パンタグラフ

#### 防音車輪の採用

曲線通過時にレールと車輪の摩擦により発生するキシリ音を低減するために、ゴムリングを車輪にはめ込んだ防音車輪を採用しています。防音車輪は従来の車輪より15~20dB程度の騒音低減効果があります。平成10年度より使用を開始し、京阪線では平成19年度中に1900系を除いた全車両(656両)に導入予定です。大津線では800系全車両に導入済みで、600・700形についても順次交換していきます。



防音車輪

の6台を平成19年度中にJESCO認定の運搬事業者による運搬・処理を実施する予定です。



PCB廃棄物運搬準備の様子